

# eスポーツ盛り上がる

## 岩日タイムズ

発行者 日本大学  
岩瀬 高等学校

永井 光輝

### 牛久市で茨城国体イベント開催 大洗高eスポーツ競技部が優勝

5月5日、牛久市中央図書館において、「第18回こどもとしよかんまつり」が開催され、中庭では東洋大牛久高ダンス部による国体ダンスや、牛久栄進高空手道部の体験など、国体関連のイベントに多くの観客が集まった。さらに今年は特別企画『チャレンジ！eスポーツ』が行われた。eスポーツとは「エレクトロニク



大画面で迫力あるプレーが繰り広げられた

試合が始まり着々と各選手が勝ち上がっていったが、最も注目を浴びていたのが大洗高校eスポーツ競技部の選手である。ウイイレはほとんど初心者だった彼らだが、この大会のためにしっかりと調整してきたのだろうか。決勝まで進出することができた。選手への応援に駆けつけた、猪瀬校長をはじめ多くの先生方が、まさに固唾を飲む試合展開で、何度かピンチ

ク・スポーツ」の略でコンピュータゲームなどを使ったスポーツ競技である。午前に行われた競技種目のサッカーゲーム「ウイニングイレブン2019（以下ウイイレ）」の参加者は、小学生から高校生まで誰でもエンタリーが可能だ。試合はトーナメント方式、試合時間は1試合10分、延長戦なし、チームはコナミオフィシャルパートナーシップクラブ20チームから選択する。



インタビューに答える大洗高eスポーツ部の選手

を収め優勝に輝いた。選手の笑顔の裏側にはこれまでの大いなる努力が感じられた。試合終了後、3年の鬼沢貴昭選手と、市毛智也選手に話を聞くことができた。今回の大会に出場するきっかけについて鬼沢さんは、eスポーツ競技部として自分の力を試すためにエントリーしたという。また、大会に向けてどのくらい前から練習してきたかとの質問に対し市毛

さんは、「ウイイレはほぼ素人なんですけど、半年ぐらい前からですね」と話した。最後にeスポーツ競技部顧問の吉田隼先生は、「将棋や囲碁等のボードゲームにも大会があり部活がある。今の時代、eスポーツ部や大会も増えてくるのではないかと。10月には茨城国体eスポーツ選手権2019もあり、今後益々eスポーツに注目が集まるだろう」と語ってくれた。

### 編集後記

今回は、eスポーツに焦点をあてた記事であったが、ゲームに対する価値観を私たち日本人は、今一度考えるべき時期なのかも知れない。eスポーツという競技は一見マイナーだと思われがちだが実は世界的には先進国のほとんどがエンタリーメントとして認知されているのだ。大会では驚くべきことに億単位の優勝賞金が出るほど、多数のスポンサーがフォローする。日本でもプロゲーマーをはじめ、高校eスポーツ部や育成学校の設立など、その認知度も高まりつつある。

近年、世界保健機関(WHO)が「ゲーム依存症」を疾病指定に認定したが、eスポーツをひとくくりにして悪者扱いにすることは疑問が残る。偏見を持たずeスポーツを再考することは、今後の大きな課題だ。(永井)